別紙２－３

校外教育活動リスクチェックシート

【ウォークラリー編】

【対象となる活動】

・緊急車両や救急車等がすぐに行けない場所での活動を含む班別活動

・近くに民家等がない場所での班別活動

（具体的な場所の例：井川、朝霧でのウォークラリー　等）

記載日　（　　年　　月　　日）

学校名　（　　）

校長名　（　　）

記載者名（　　）

（１）児童生徒と教職員の連絡手段（別紙１再掲）

→□児童生徒に携帯電話を持たせる（　　）台

→□児童生徒にトランシーバを持たせる（　　）台

→□児童生徒と教職員が常に一緒に行動する

→□その他の方法（　　）

（２）事前指導・事前準備

□山や自然のもつ危険性（天候や気温が変わりやすい、見通しが悪く道を間違えやすい等）について伝えた。

□画像や動画を使った詳細な説明を行った。

□児童生徒にルート、分岐点、所要時間等がわかりやすく示されている地図を持たせている。

□トランシーバ等の使い方について、活動前までに児童生徒に指導する時間をとっている。

□児童生徒が歩く際の安全対策等について、直前にも確認する時間をとっている。

□天候不良等による実施の可否の判断基準を決めている。

（３）現地での連絡体制

□ウォークラリー中の教職員間の連絡体制ができている。

→連絡方法（　　）

□児童生徒が道に迷った場合等、緊急時の教職員の役割分担ができている。

□最寄りの病院、警察、消防等の連絡先を把握している。